

# 令和 2 年度 学校自己評価点検

学校自己評価を行うにあたり、以下の方法で、データ収集、分析、課題の抽出を行いました。

## I データの収集

### 1 アンケートの作成 令和元年度7月－12月

「専修学校における学校評価ガイドライン」

平成25年3月 文部科学省一に準拠した

アンケート内容は別紙1参照

### 2 アンケートの実施 令和 2 年度3月

対象	教職員	17名	平成 2 年度在校生	76名
	回収率	88%	回収率	79%

## II データの分析、課題の抽出

### 1 大項目ごとに平均得点を算出をした

### 2 大項目ごとに評価と課題を抽出した

## III 自己評価点検委員会で討議をした

# 学校自己評価点検

平成19年には学校教育法の改正により、自己評価の実施と公表が義務化されました。

本校は長野県立病院機構を設置母体とし、平成26年4月に地域医療を担う人材育成を目的に看護基礎教育をスタートさせました。開設当初より、自己点検評価委員会・外部評価委員会を設け、評価・改善を重ねながら学校運営にあたってまいりました。

この度、令和2年度の評価がまとまりましたので、結果の公開をいたしますとともに、今後も分析と検討を重ね、学生の学習環境の改善に努めてまいります。

## 1 大項目ごとの平均得点

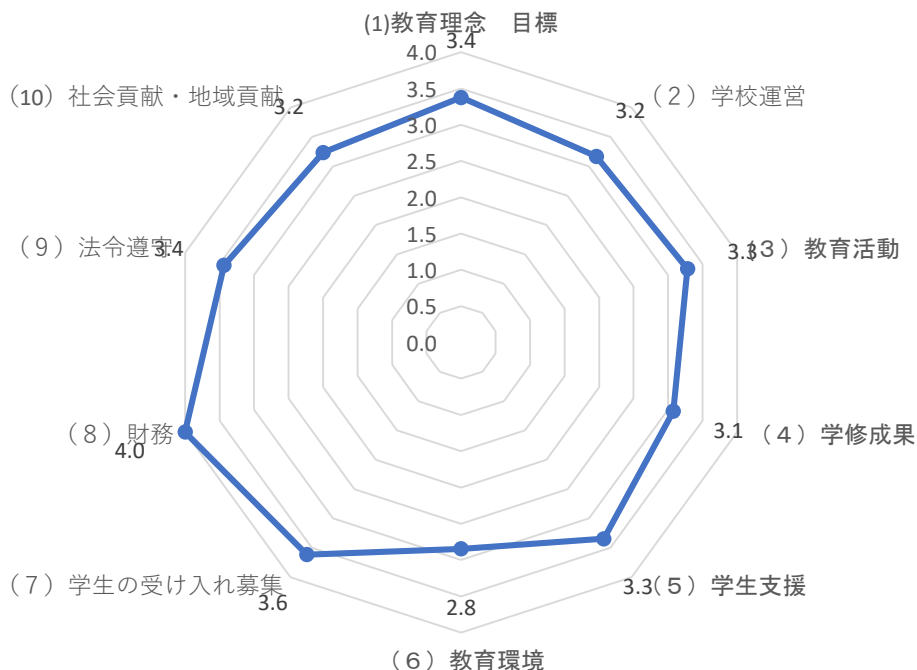
平均得点

I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X
教育 理念 目標	学校 運営	教育 活動	学修 成果	学生 支援	教育 環境	学生の 受け入れ 募集	財務	法令の 遵守	社会貢 献・地 域貢献
3.4	3.2	3.3	3.1	3.3	2.8	3.6	4.0	3.4	3.2

評価は4段階とした 4：とてもそう思う 3：そう思う  
2：あまり思わない 1：まったく思わない

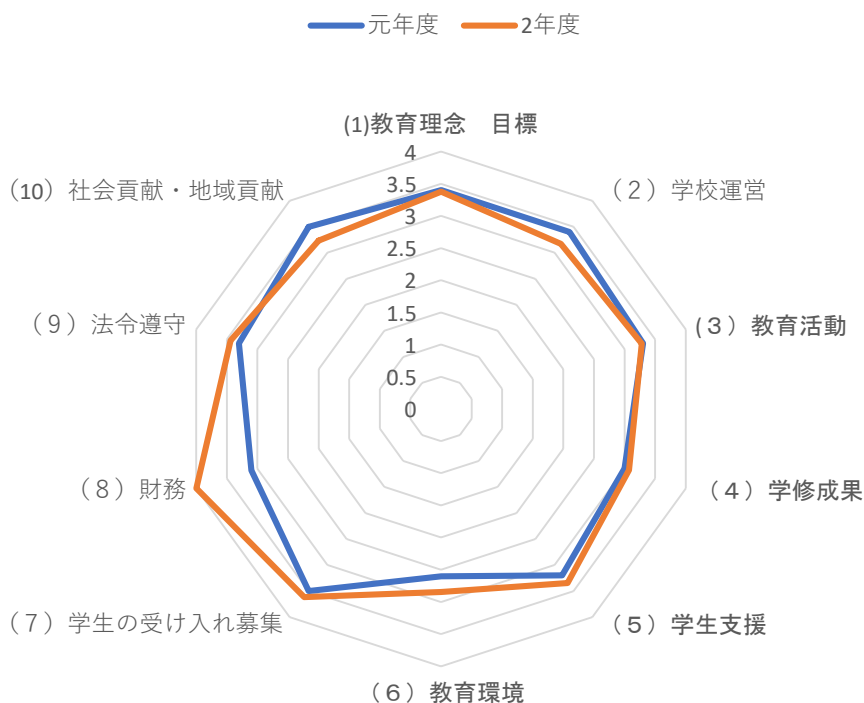
## 大項目のレーダーチャート

令和2年度 学校評価（教員）



# 元年度・2年度の比較

## 学校評価（教員）元年度・2年度の比較



### 昨年との比較

ほぼ、昨年と同程度の評価であったが、

**10 社会貢献**が低く、**8 財務**が高い評価であった。社会貢献は、コロナ禍において活動自粛を余儀なくされたことが影響していると考えられる。財務の高評価は、在学学生数が増え、Wi-Fi環境などの設備投資が予算化されたことなどが、関与している可能性がある。

# 学生の評価

## アンケート項目

		結果
1	学校は理念・教育目的・教育目標をわかりやすく表現している	3.1
2	教育理念・教育目的・教育目標は学生の学習の指針になっている	3.2
3	理念などの達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいる	3.3
4	授業科目の単位履修の方法は学生便覧にわかりやすく明示されている	3.5
5	実習施設との連携など、医療施設との協力体制が整備されている	3.5
6	単位認定のための評価は学校全体として一貫性がある	3.3
7	学数への指導は学校全体として一貫性がある	3.2
8	学習への指導は学生の学習の動機づけと支援になっている	3.2
9	学生の進路・就職に関する支援体制は整備されている	3.3
10	学生が学校生活を円滑に送れるように、施設設備を整備改善している	3.3
11	教育・学習活動に関する情報提供は適切に行われている	3.3
12	学校のホームページはわかりやすく整備されている	3.3
13	学校は、看護教育活動を通して地域社会への貢献を組織的に行っている	3.4
14	学校は、保護者と適切に連携をとっている	3.1

評価は4段階とした

4：とてもそう思う

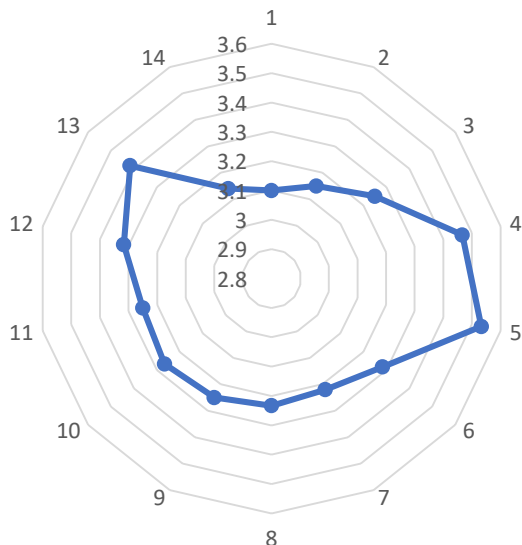
3：そう思う

2：あまり思わない

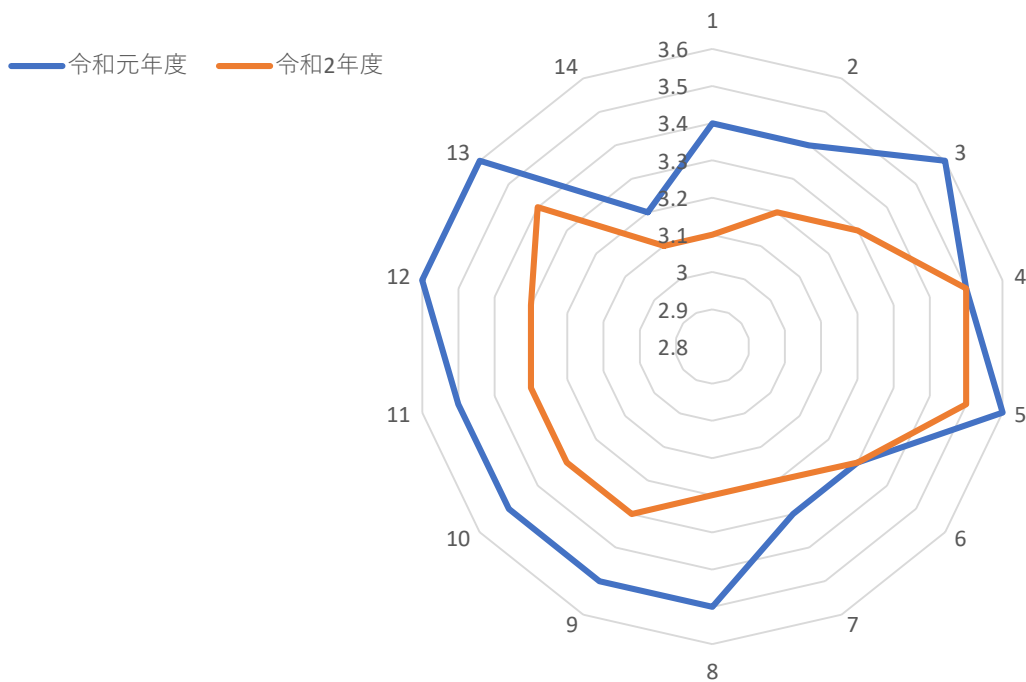
1：まったく思わない

# 学生の評価レーダーチャート

## 令和2年度 学生の評価



## 令和元年度 2年度比較



### 昨年との比較

昨年に比べ、全体的に評価点が下がっている。理念と科目の関連性（項目1 - 3）や学習の動機付け、進路などの支援体制、学習などの情報提供、学習環境の整備（項目8-11）に対し、厳しい評価を得た。コロナ禍で、リモート講義（2週間実施）や学内行事の中止、実習の方法の変更など、手探り状態で運営した令和2年度であった。そのため、教員、学生ともに、落ち着いて看護学の学びにひたれなかったことが影響しているかもしれない。

## 2 大項目ごとの評価と課題

### I 教育理念・目標 3.4

令和4年度改正カリキュラムの検討を重ね、そこで、教員の理念・目標への考え方の統一を図ることができた。理念・目標と各教科のつながりが明確になり、学生への説明機会が増えた。また、教育理念・目標を記したパネルを玄関、各教室、アリーナに掲げ、教員・学生が常に目に見ることができるようにした。が、教員の評点は昨年度と同点(3.4)であり、また、学生の評価は昨年度より0.3ポイントさがっており(3.4⇒3.1)、引き続き理念・目標が浸透できるように意図的なはたらきかけ働きかけが必要である。

課題 1、教育理念・目標を学生、保護者に伝える機会を意図的に設ける

### II 学校運営 3.2

学校の理念・目標・育成人物像について、学校パンフレット、学校便覧に明記され、カリキュラムまで整合性のある内容となっている。学校運営組織については、図式化され明示されている。カリキュラム、その他事業計画については、週に一度の教員会議で進捗状況の確認・評価を行い、月一度の教職員連絡会議において職員全体の意思統一を図っている。学校の最高意思決定機関である運営会議は、月に一度開催し適時性のある議決を行っている。教員の自宅持ち帰り業務を調査した結果、業務の効率化、教職員の業務分担については偏在があり、更なる改善が必要であることが判明した。改善結果については、再度調査し評価する。

課題 1、教職員の業務分担を見直し、偏在の是正を図る

### III 教育活動 3.3

学生による授業評価を全科目で実施し、担当者と結果の共有を図っている。専任教員の科目に関しては、カリキュラム評価会議にて次年度への課題を提示し改善に取り組んだ。また、コロナ禍のため、講師会議を文書会議に変更して評価を得た。国家試験合格率95.4%、既卒者を含め91.3%であった。2名の不合格者がおり(1名既卒、1名新卒)、今後の受験に向け支援が必要である。在學生は、基礎知識の不足があり、その強化のため、学習方法の把握・確認、教員全員での指導体制を整えることが必要である。教員の自己研鑽の機会については、コロナ禍であったが、学会や研修へのリモート参加ができた。ICTに関しては、Wi-Fi環境の整備の予算化、ケーブルの光化工事など、徐々に環境の整備が進んでいる。

課題 1、国家試験に向けての指導体制の強化を図る  
2、ICTを取り入れたカリキュラムの開発を行う

## IV 学修成果 3.1

国家試験の合格率は新卒95.4%（前年度96.2%）、不合格は1名（前年度1名）、既卒含めた全体は91.3%であった。退学者・休学者は、例年より減少している。令和2年度から業者による基礎力リサーチテストを実施しているが、データの有効活用をし、学習や生活に困難を感じている学生の早期把握と支援に繋げた。

令和元年度卒業生に対して3月にアンケート調査（対象27名）を実施した。回収率37.0%。卒業後1年間での離職・転職は0人であった。今後、2名が健康問題や家庭の事情により転職予定となっている。また、今後のキャリア形成としてDMATやケアマネージャーの資格取得に向け、具体的なプランをもち働いている者もいる。令和2年度卒業生はコロナ禍のため、ホームカミングデーが開催されなかったり、学校への来校が制限される状況にあったため、卒業後の支援として、ホームカミングデーや同級生と会える機会の要望が多かった（70%）。卒業後に学校を利用したい理由、利用した理由では、勉強の機会や教員への相談等があり、臨床での卒業教育や新人の支援体制は整っているが、就職してまもなくの相談や情報交換の場として、ホームカミングデーの意義は大きい。学校としての卒業生の支援を継続する必要が求められている。

- 課題
- 1、国家試験合格への支援を行う一保護者との連携を図る
  - 2、基礎力リサーチテストの資料を活用する
  - 3、卒業生の動向調査の継続とキャリアアップへの支援を考える
  - 4、オンライン配信を含めホームカミングデイを実施する

## V 学生支援 3.3

進路、就職について、2年次に外部講師による就職活動の方法を講義し、キャリア形成講座にて認定看護師、専門看護師等からキャリア形成の実際を学んでいる。学生の経済支援では、機構修学資金制度、日本学生支援機構奨学金、長野県看護職員修学資金貸与制度、他各病院の奨学金制度あり、随時、保護者・本人に案内をしている。また、令和元年度より、給付型奨学金制度を導入し活用している。コロナ禍において経済的な支援が必要な学生には随時、情報発信をして支援に繋げ、家計急変による退学者はなかった。さらに日本学生支援機構の補助金を活用し、希望者にWi-Fiルーターの購入資金の一部を補助した。また、木曾町、連合長野より商品券やアルコール消毒液の支援があった。保護者との連携に対しては、学校ブログを年36回更新し、学生の様子を伝えている。3年次には学生通信を年2回発行している。また、必要に応じて、保護者と連絡を取り学生の支援に繋げている。学生のアンケートでは保護者との適切な連携の評価は3.2であり、昨年度（3.1）より0.1ポイント上昇した。

また、木曾病院の新人看護職（約90%が当校の卒業生）の研修に協力をしている。

- 課題
- 1、奨学金制度の活用による経済的支援の継続をはかる
  - 2、保護者との連携を持続する

## **VI 教育環境 2.8**

新たに別棟施設（研修棟）が利用できるようになり、新型コロナウイルス感染症対策として、ゾーニングに有効利用できた。講義や研修、各発表会をリモートで行うことが多くなり、そのためのwi-fiやパソコン周辺設備、教員のウェブ調整の技術習熟の不十分な部分が明確となった。実習施設とは、担当教員が指導者と連携し、感染対策や実習方法の変更など、状況に応じて、調整を行い、実習の継続に配慮した結果、ほぼスケジュール通りの実習が実施できた。

インターンシップについては、情報提供はしている。平日行われるインターンシップについては、欠席扱いとなるが、実際の参加者はほとんどいない。

海外研修の参加については、コロナ禍が終息するまでは、推進できない状況にある。

防災体制は、学校内で年2回避難訓練や火災報知器などの点検が行われ、防災体制は整備されている。実習施設での対応は担当教員ではあるが、実習施設での避難訓練は、日程等の調整が困難で参加できていない。

- 課題
- 1、 リモート環境を整え、教員のウェブ調整の技術の習熟度を高める
  - 2、 実習施設との連携を深め、実習継続のための方策を立てる
  - 3、 インターンシップ参加の支援を行う
  - 4、 コロナ禍が終息したら、海外研修の意向調査をする

## **VII 学生の受け入れ募集 3.6**

コロナ禍により、高校訪問やガイダンス参加が制限されており、高校等への情報提供が十分ではなかった。オープンキャンパスは対面で実施ができ、ほぼ例年並みの入場者数が確保できた。中信地区に看護大学が開校した影響か、例年複数人の受験があった高校の受験生がゼロになった。今後の受験生確保については、更なる工夫が必要である。一つの方策として、リモートガイダンスも実施してゆく必要がある。

学校案内パンフレットに就職・進学先について載っているが、国家試験合格率については伝えることが出来ていない。また、学生が簡単にアクセスできるホームページには就職・進学先については載っていないため情報を伝える場が少ない。

- 課題
- 1、 ガイダンスの多チャンネル化を図る
  - 2、 ホームページの活用の拡大を図る

## **VIII 財務 4.0**

入学金、授業料収入と長野県立病院機構からの運営費負担金により運営されている。独自収入を増やすことは難しいが、学生の確保に努め、収入の確保を図ることが必要である。定員90名であるが、令和2年度の在学学生は76名で、84%の充足率である。100%にする努力が必要である。また、経費の節約に努め、無駄な支出を減らしてゆく。

- 課題
- 1、 学生の確保に努め、入学定員を満たす



## **IX 法令等の遵守 3.4**

全体では法令や設置基準に沿った運営をしていると評価された。「③法令遵守のためのガイダンスは適切である」の項目が低値であり、学則の説明や入職時オリエンテーションが不十分な可能性がある。また、「⑥自己評価の実施と問題点の改善に努めている」も低値ではあるが、現在評価中であり、今後の取り組みによって再評価したい。

教員の学外での研究発表に備え、倫理審査委員会の設置が必要である。

- 課題
- 1、入学時・入職時のガイダンスを丁寧に行う
  - 2、倫理審査委員会の設置を検討する

## **X 社会貢献・地域貢献 3.2**

コロナ禍で地域の行事やイベントが中止となり予定していたボランティア活動が、ほぼ実施できなかったことが低評価（3.5⇒3.2）に繋がった。地域の要請を受けて妊婦体験スーツと赤ちゃんモデルの貸し出しを実施した。今年度は地域との意見交換、文化祭の一般公開、木曽地区災害時医療救護訓練などは実施できなかったが、ワクチンの接種の練習用に筋肉注射モデルの貸し出しも追加され地域貢献につながった。

長野県看護協会主催の新人看護師教育や長野県看護大学で実施した長野県看護教員養成講習会の講師として教員を派遣している。

- 課題
- 1、ボランティア活動の学生・教員の関与を引き続き支援する
  - 2、学校の資源や教員の積極的活用を推進する